

2015年 町勢要覧
MOTOBU
本部町
 沖縄県
 もとぶ



太陽と海と緑-観光文化のまち
沖縄県本部町



太陽と海と緑-観光文化のまち
沖縄県本部町
 2015 町勢要覧



この冊子は環境にやさしい
 100%再生可能な紙を使用しています。

日本一早い
桜まつり

夕陽の
美しいまち

年間平均気温
23.6℃の
温暖な気候

豊かな自然が
溢れるまち

フクギの里

沖縄そばの
まち

世界に誇れる
水族館

アセローラの
まち

年間
約400万人の
観光客

太陽と海と緑―
観光文化のまち
本部町

沖縄本島の北西部に位置する本部町は、西に東シナ海を望み、東に雄大な自然の営みを感じさせるカルスト地形や八重岳と、美しい景観や恵まれた自然環境に育まれ、時代の移り変わりとともに変遷を重ねながら、多くの先人たちの努力により発展してまいりました。本部町には、年間400万人以上の観光客が訪れます。初夏を告げるカツオや、真夏の太陽を連想させる真っ赤なアセローラ、シークワイサー、カープチーなど、一年を通して旬の特産品が溢れ、海洋博公園の沖縄美ら海水族館に代表される観光施設や、備瀬のフクギ並木など、見所も枚挙につきません。

一方、本部町は少子高齢化や過疎化をはじめ、全国の町村地域と同様の現状と課題を抱えております。その課題の克服に向け、多様化する地域のニーズをくみ取りながら、歴史と伝統を継承しつつ、新しい時代に向けた明確なビジョンを持ったまちづくりを進めてまいります。この町勢要覧では、本部町の地勢や文化、特産品などの情報をほんの一部紹介しております。この冊子をご覧いただければ幸いです。ご理解していただければ幸いです。本部町にお越しいただき、その良さをお確かめください。町民一同心よりお待ちしております。

本部町長 高良 文雄

本部町って
どんな町



O K I N A W A / M O T O B U

[illegible]

本部町市街地

本部大橋

福祉センター

浄化センター

壁面通り

もとぶ野毛病院

中央公民館
博物館
図書館

谷茶公園

渡久地港
水納島・船着き場

町営市場
渡久地交差点

本部郵便局

本部町役場

JA

やまだクリニック

本部警察署

本部町今帰仁村
消防本部

瀬底大橋

本部高校

本部中学校

漁協

[illegible]

01 太陽と海と緑—太陽観光文化のまち



町民一人ひとりの笑顔が
わがまちの太陽



みんなが
笑顔で暮らせる
明るく元気なまち！



太陽と海と緑とは？ ～観光文化のまち～

亜熱帯のあふれる太陽のもとに築き上げられた、町民一人ひとりが身近に実感する住みよいまちのイメージ。海、山の自然の恵みと固有の文化に根ざしつつ、自然の摂理はもとより、人間性を大切にする姿勢を基調とした観光文化のまちの実現を目指しています。

本町は、町民一人ひとりの笑顔がまちを明るく元気にする太陽です。豊かな恵みをもたらす海や、緑深い山々に抱かれ、多くの先人たちが残してきた英知や、町民の活力を原動力として発展してきました。これからは、子どもからお年寄りまで、すべての町民がより快適で安らぎをもって暮らすことができる日本一元気なまちの実現に向け、日々取り組みんでいます。

沖縄本島北西、本部半島の西部に位置する本部町は、美しい山並みや海岸線を擁し、季節や時間の移り変わりで見える様々な自然の表情は人々を魅了します。西の海上に沈みゆく夕陽は特に美しく、町民が誇る風景の一つです。



もとふ手作り市





海洋博公園



沖縄美ら海水族館



沖縄国際海洋博覧会開幕
(1975年)

海洋資源を
さまざまに利用



カツオの水揚げ



カツオの1本釣り



カツオのぼり



ハーリー

本部町には、15の行政区があります。そのほとんどが海浜に面しており、住民の生活も、昔から海との関わりが大変深く、海からもたらされる多くの恵みを受けながら発展してきました。

八重岳、本部富士などの比較的高い丘陵が海浜まで裾野を広げ、近隣市町村との境を分けており、海岸線は複雑です。本部町には、自然の河口を利用した渡久地港や、伊江島や本土と航路を結ぶ本部港をはじめ、全部で7つの港があります。本部港は、昭和50年、沖縄国際海洋博覧会開催の折、大型旅客船が接岸できる港湾として整備されました。渡久地港は古くから交易港として多くの人が行き来する港で、明治30年代後半から始まったカツオ漁や、人々が集う地勢によって、本部の食文化を育んできました。

現在でも、ダイビングやホエールウォッチングなどのマリニレジャー、物流や漁業の場として、本部町の重要な資源として大切に守られています。

MOTOBU
SUN
OCEAN
GREEN

02 海の恵みに育まれ、
海と共に発展するまち

海



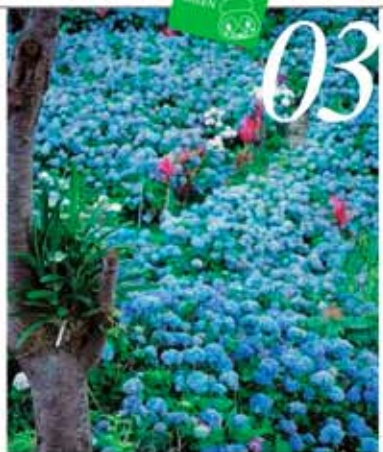
水納島

四季折々の彩りが山を豊かに潤す

MOTOBU
ON
OZAN
DRIVEN

03

雄大な景色と自然の恵み、
緑豊かな本部の魅力



あじさい園



藍染め



アセローラ



シークワサー



「フクギの里宣言」の様子

八重岳の桜



備瀬のフクギ並木



ジューフェニモ



八重岳野戦病院跡

八重岳の桜まつりは
とてもきれいで
ぜひ遊びに来てね



本部町には、ここで見ることのできない景観や、本部町ならではの自然の恵みにあふれています。八重岳周辺では約7千本の寒緋桜が1月中旬ごろから開花を迎え、沿道を桜色に染めます。町内には、国内唯一の円錐カルスト地形もあります。カルストとは、雨水や地下水により石灰岩が溶かされてできる地形のことです。山里地域一帯には、国内でも珍しい円錐形の山々が連なるカルスト地形が広がり、見る人を圧倒します。

本部町では、フクギ並木で有名な備瀬を筆頭に、現在でも多くの地域でフクギを観ることが出来ます。平成27年2月9日には、フクギが息づき、共に暮らす町として「フクギの里宣言」を行いました。台風などの自然災害から人々の生活を守るフクギを、先人たちの残してくれた大きな財産として、保全、再生に取り組んでいます。また、豊かな土地は常に人々の生活を支えてきました。変化に富んだ地形を生かし、花卉、かんきつ類などの果樹、野菜などを栽培。特に、かつては県内有数のバインの産地であった伊豆味地域は、タンカンをはじめとするかんきつ類の一大産地となっています。さらにアセローラや菊、キャベツなど、多彩な農産物が産出されることも本部町の特徴のひとつです。



渡久地からの一瞥



琉球果樹園の工具



バイン



円錐カルスト

誇りある歴史と文化を
未来へ受け継ぐ

豊年祭

豊年祭は五穀豊穡を神に感謝するお祭りです。本部町内でも瀬部区、崎本部区、渡久地区、伊豆味区、備瀬区で行われています。渡久地区では7年マール(6年に1度)で、豊年祭と大綱引きを交互に実施しており、大綱引きでは東西に分かれて大綱を引き合い、勝敗の結果で農作物の豊凶を占う。綱引きの前には東西両陣営からそれぞれ若者が牛若丸と弁慶に扮し、大勢の人が支える戸板の上で戦う。



伊豆味のあやつり獅子

伊豆味の豊年祭



渡久地の豊年祭(大綱引き)



藍染め

琉球藍(還藍)は単に藍(方言:イェー)と言い、沖縄の代表的な染料で染織等の藍染めに欠くことのできない原材料製造技術である。国選定保存技術保持者である伊野波盛正氏の下に藍染の栽培から製造まで技の継承を図るために琉球藍製造技術保存会が結成され栽培、還藍製造を行っている。



備瀬のシニグ



伊野波のムックジャ



瀬部のウフユミ・シヌグイ

守り伝えられる
シヌグ

沖縄県の本部半島の具志堅を始めとする地域では、旧7月16日～26日の3日～7日間に「シヌグ」といわれる村落祭祀が行われる。これは祖神アマミクの渡来と稲作の豊穡を祈る祭りである。由来は定かではないが、備瀬の集落全域が具志堅であり弥生時代から人が住んでいたとされることから、かなり古くからこうした行事が行われていたとされる。

具志堅のシニグ



備瀬のシニグ

本部の伝統

文歴
化史



崎本部のシニグ



辺名地のシニグ



備瀬のシニグ



具志堅の神ハサーギ
(町指定有形民俗文化財)

祭の際ここに守護神を招き、祭祀を行う。御殿や村の広場、元屋（むーとうや）の近くにあり、昔のままの石柱が低い茅葺きの床や壁がない小屋風の作りをしている。



仲村家文書（県指定有形文化財／古文書）

辺名地の仲村家に伝わる、約400年前に首里王府から出された3通の辞令書。この辞令書から当時の役職、三交代勤務の制度などが判明した重要な史料。



本部町には、数多くの史跡や文化財が存在します。沖縄貝塚時代や琉球王朝時代、沖縄戦、そして本土復帰と、時代の大きな波を経て今なお、今日まで脈々と守り伝えられてきました。本部町ではこれらの史跡・遺跡を大切に守り、後世に伝えるべきです。

瀬底祝女の簪
(町指定民俗文化財：昭和52年指定)

瀬底の祝女に首里王府から交付された簪。他にも勾玉が現存する。首里王府とのつながりを今に伝える貴重な文化財。



本部

貝塚、史跡

人々の暮らし

の

気品ある

文化

豊かな自然

財

歴史的財産

町立博物館

文化と自然をテーマにし、貝塚から出土した遺物や町近海で採取された珊瑚や貝、民具による古民家の再現。町の森に生息する天然記念動植物の標本など町の貴重な文化財を多く展示している。



瀬底土帝君一郭（国指定重要文化財／建造物）

土帝君は農業の神様のことで、毎年旧暦2月2日に豊作祈願の祭祀を行う。上間家二世健堅親雲上（1705～1779）が清国から土帝君の本像を持ち帰り、瀬底に祀ったのが始まり。



山川堀内権現洞穴遺跡（県指定史跡）

港原の小高い丘にあり、昔から山川集落の信仰の対象だった。沖縄貝塚時代後期～グスク時代の洞穴住居跡といわれ、シャコ貝製の網の鎌などが出土した。



浜元サチビン貝塚（県指定史跡）

西海岸に突出した琉球石灰岩の上および海岸下の傾斜面にある貝塚。沖縄貝塚時代前期～中期にかけての遺跡で、石斧や有文土器、無文土器などが出土した。北部の前期遺跡として貴重なもの。

浪漫ただよう歴史と文化、貴重な史跡の数々

民話コラム

本部町の民話 下巻・当部編から

瀬底と伊江の水納島争い

伊江島と本部の南西方向の間に小さな島があります。それが水納島です。むかし、水納島が伊江島のものか本部町のものかまだはっきりしていない頃に、両方の人達が集まって水納島がどちらのものか争いました。「この島は伊江島に近いから伊江島のものだ」「いや、本部に近いから本部のものだ」いくら話し合っても決着がつかないので、「じゃあ競争で決めよう」ということになりました。

伊江島からサバニに乗り、また、本部からもサバニに乗って水納島までそれぞれ漕いでいって、先に着いたところのものにしようと、相談が決まりました。

そのころはまだ電話もありません。船の漕ぎ手が船に乗り、出発する時に「用意、ドン」と、両方から松明で合図を送りました。

水納島に早く着いた方の勝ちですから、伊江島からも本部からも同時に海に出て、一生懸命漕いでいきました。そして、本部が勝ちました。

実は、最初の相談では、伊江島と本部からそれぞれ船を出すという話だけしかしてなかったのです。そこで本部の人達は頭を働かせて、本部の渡久地からではなく、水納島に近い瀬底から出たのでした。瀬底島の裏側にきれいな浜があり、そこが水納島の間はわずかに離れていません。

伊江島の人達は、びっくり本部は渡久地港から出ると聞いていたために自分たちが勝つと考えていました。けれど本部が勝ったので、不思議に思い、「どうしてこんなに速いのか。するをしたんじやないのか」と言い、またいさかいになりました。

本部の人達は「瀬底島の水納島に一番近い所から船を出したんだよ」と正直に話しました。伊江島の人達は悔しがりましたが、瀬底も本部のうちということに変わりはありません。伊江島は負けて、水納島は本部町のものになったそうです。



大石原のアモンナイト化石（県指定天然記念物）

海洋博記念公園内海岸の石灰岩とシルト岩の中に、古生代（約2億2千万年前）に生息していたイカやタコの仲間のアモンナイトの化石がある。

本部監視哨跡
(戦争遺跡)

谷茶東側高台に位置。監視哨は戦時中（昭和18年頃）、飛来する敵の飛行機をいち早く発見し、正確な情報を日本軍の作戦室に報告するための重要な見張台だった。





町章

本部町の頭文字「本」を円案化し、「日本」を強調させ、円は平和と円満を表わし、両翼の羽根型は町の飛躍発展の姿を象徴する。
制定：昭和四十一年十二月十五日

本部町民憲章

わたくしたち本部町民は、ふるさと美しい自然とそこに息づく歴史・文化に誇りを持ち、町民のたくましく生きる力と積極性を活かして活力ある町づくりに勤むとともに、新しい時代にひらける太陽と海と緑―観光文化の町づくりをめざし、ここに町民憲章を定めます。

わたくしたち本部町民は

- 一、ふるさとの美しい自然を愛し、みどりの町をつくりまします。
- 一、健康で働く喜びを大切にし、幸せな家庭を築きます。
- 一、きまぐれを誇り、互いに力を合わせて、明るい町をつくりまします。
- 一、思いやりの心でいたわり助けあひ、ほぐみよい町をつくりまします。
- 一、教育・文化を大切にし、教養を求め心豊かな人になります。

本部町のシンボル *Symbol*



フタオチョウ



コノハチョウ



リュウキョウコノハズ



カブオ



町の花 / ラン



町の木 / フクギ



町の花木 / サクラ

太陽と海と緑
観光文化のまち



本部町

「太陽と海と緑 観光文化のまち」の実現を目指し、

- 安心・安全・平和に暮らせる町
- 公正・公平に運営される町
- 社会的に弱い立場の人々に優しい町
- 自然や文化を大切にする町
- 自己向上・自己表現のできる町
- 誇りと自信を持って暮らせる町
- 温かく他人を迎えることができる町

を基本姿勢に、まちづくりを進めていきます。

MOTOBU

沖縄県本部町生まれのぶとモー
楽しいこととおいしいものが大好き♪

プロフィール

名前
ぶとモー BUTOMOO
生まれたところ
沖縄県本部町八重岳
生まれた日
さくらの季節
性格
好奇心旺盛だけど
ちょっぴりシャイ
特技
カラテ



ぶとモー

僕はぶとモー。沖縄県の北部にある本部町の八重岳というところに住んでいます。
本部町は「太陽と海と緑―観光文化のまち」がキャッチフレーズ。僕の体も本部町をイメージした太陽の赤色、海の青色、緑の緑色で、頭のデザインは町章がモチーフなんです。
八重岳は日本一の早咲き桜の名所。桜の時期になるとたくさんのお客さんが来ます。本部町に来た時はぜひ僕を認めてね。

福祉 保健

少子・高齢化社会 への挑戦



みんな健康で笑顔に



すべての町民に充実した福祉を

子育て支援を中心に医療や雇用、福祉、教育等、定住環境の整備に努め、人口減少に歯止めがかかるよう、取り組んでおります。高齢者や障がい者に対する、医療や介護対策等によりしっかりと取り組み、住みよい、暮らしやすい本部町にしていきたいです。





防災無線・防犯カメラ

暮らしの基本を支える安心と安全



本部町・今帰仁村消防組合



本部警察署



崎本部緑地（本部港）



伊豆味駐在所

災害に強いまち、人と

人の絆が強いまち



渡久地港プロムナード

町民と共に、平和なまちづくり
災害に強い道路・河川・港湾・地すべり地域の整備を関係機関と一体となり安全・安心のまちづくりに努めております。ソフト面においては、災害時における地域コミュニティ機能が大きな役割を果たすことから、避難訓練や各地域での消防団活動の支援を通して、人と人の絆が強いまちづくりを目指していきます。



地震・津波避難訓練

生きる力を身につけて
心も体も健やかに



本部っ子夏休み地域学習教室

本部人(もとぶんちゅう)の気質や性格を表す、進取の気性に富んだ「武(ぶ)本部(もとぶ)」という本部人魂を、教育の目標に据えて、児童生徒一人ひとりに生きる力を身につけさせ、これからの国際化、情報化社会で活躍する人材育成に取り組んでいきます。



ジュニアマラソン大会



こどもとふ会議



人材で未来を拓こう

教育目標

武本部

ブームトゥブ

マリン体験学習

武本部とは、本部の人の「進取の気性」に富み、「質実剛健」で学芸と武芸の両方に秀でている「文武両道」の町民性を表す言葉です。

琉球王朝の第二尚氏時代の18世紀以降に、首里王府による士族の帰農入植が奨励され、県内の各地に帰農士族による、いわゆる屋取り集落が形成されました。特に本部町は県内でも屋取り集落が多い地域で、旧士族やその子孫と地域に元々住んでいた人々が互いに切磋琢磨し本部町を繁栄させてきたことに起因すると言われています。

さらに、本部の変化に富んだ地形や風土など自然環境や生活環境が厳しかったことが、本部の人々に「パイオニア精神」、先駆者としての気質が培われてきた要因となりました。



もとぶ手作り市



やんばるの産業まつり



マグロの水揚げ



モズク



水揚げされたカツオ

町の活性発展は、 経済再興から

上本部飛行場跡地の有効活用や渡久地港を中心としたみなとまちづくり、本部港から本土へと物と人が行き交う航路支援、まちぐるみの再開発等、地域経済循環型社会の形成を図り、成長し続ける町への取り組みを行います。



あじまあ産業・観光



タンカン



アセローラ



輪ギク

本町の特徴でもある、山・川・海を一体として捉え、自然を生かした風景づくりを推進し、町全体を観光のまちとしてブランド化するという認識で諸施策に取り組み、滞在型観光へとつなげていきます。



もとぶ香りネギ



キャベツ



カーブチ



キンキンゴーヤー

の拠点づくり

特産品 工芸品



specialty product

海の幸、山の幸、本部の恵み

豊かな自然環境に恵まれた本部町は、特産品の宝庫です。そして現在も、新たな特産品が次々と生み出されています。四季折々の豊かな食材を使った特産品や技巧をこらした工芸品は、どれも作った人の愛情が込められています。ここでは、新たに開発された特産品を中心に、本部町自慢の品をほんの一部ご紹介します。

本部の自然で育ったアセローラ フレッシュな製品がいろいろ



植物オイルにアセローラを漬け込んで成分を抽出した天然成分だけで作られた保湿オイルと「MOTOBUの香り」と名付けられたアセローラの香りのフレグランス。

アセローラ

減農薬で栽培したアセロラの果実や葉を使って、コンポートやジャム、アセロラティーなどの商品を開発。生産から加工まで、すべてハンドメイドで行う。



マフィン

豆腐を作る際に出たおからを使い、トッピングにアセローラやタンカンといった本部町の特産品をあしらったマフィン。パッケージには本部町の自然をイメージしたイラストも。



シークワサー



町内の契約農家が育てたシークワサーを使い、絞汁からパック詰めまでを町内で一貫して行っている。豊かな香りとスッキリした酸味を楽しめる。

さくら



桜餅
八重岳の精進庵の菓とアセローラシロップを使った、ほんのりと淡い桜色が春を連想させる桜餅。餅の中にも刻んだ桜の葉が入っている。

ピクルス



無添加、無農薬の旬の野菜にこだわり、食卓に彩りを添えるお漬け物。かつお風味や、シークワサー風味をラインナップ。

やぎ

ヤギミルクジャム

新鮮なヤギミルクを使用したジャムは、ミルクのしっかりしたコクとさっぱりとした甘さを楽しめる。



もとぶ山羊肉・もとぶ山羊汁

本部町で飼育されているヤギをもっと身近な存在にしたいと、ヤギ肉を使った商品を開発。

本部町ならではの
美味・滋味がたくさん



カツオ



かつお節

がじゅまるなどの薪を使い昔ながらの製法でつくられるかつお節は、香ばしく豊かな香りを楽しめる。県内中南部から足をこはぎ買い求める人も多い。



ハイサイ! かつお酒

栄養価の高いカツオのなまり節で商品開発。子どもからお年寄りまで毎日手軽に食べてもらえるよう、カレー味やしょう油ベースなど、味つけにも工夫を施している。

もとぶ牛



「沖縄生まれ 沖縄育ち」もとぶ牧場が所有する牛で、日本格付協会が認定した3等級以上の黒毛和牛。厳格な管理の下、牧場オリジナル発酵飼料で育てられている。

特産品 工芸品

specialty & product

人の温もりを感じさせる工芸品の数々



豊かな自然に育まれた伝統技術

陶芸



本部町には南蛮窯と登り窯など3つの窯元が存在し、伝統的なシーサーや日常的な食器など様々な陶芸品が作られている。窯元によって製法が異なり、それぞれ独特の手触りや風合いを楽しむことができる。



フクギ染め

フクギ染めの手ぬぐいと小物入れ

防風林としての役目を終えたフクギの皮を使い染料を抽出。時間をかけて染め上げられたフクギ染めは、おだやかで優しい色合い。



ガラス工芸

町内で作られるガラス工芸品（琉球ガラス）は鮮やかな色合いや気泡が美しい。独自の製法により耐熱性のあるガラスも製造されている。



藍染め



沖縄の伝統的な染料である琉球藍は、現在は本町や北部の一部でしか生産されていない。藍染でただ一人の国指定保存技術者である伊野波盛正氏は、伝統の製法で琉球藍特有の鮮やかな藍色を発色。その技は注目を集めている。

泡盛



こんこんとわき出る清水を用いて仕込まれた泡盛は風味豊か。多くの町民に愛飲されている。40年間熟成された貴重な古酒も存在する。

黒糖



やえざくら黒糖

町内で収穫されたサトウキビを使い作られる黒糖は、そのまま食べても料理に使っても、甘く豊かな香りを楽しめる。

むんじゅる笠

瀬底で栽培された麦わらで編まれたむんじゅる笠は、かつては農夫や漁師が使用していた。現在は琉球舞踊や豊年祭の小道具として愛用されている。作り手は3人しかおらず、一つ一つ手作りのため、貴重な工芸品となっている。



木工芸

桜の木の離乳食スプーン
桜の木のスプーン
桜の木のフォーク

倒木した桜の木を使い、離乳食用のスプーンやフォークを製作。赤ちゃんが握りやすいように改良を重ねた形は愛らしく、使いやすいと好評だ。



EVENT CALENDAR

- 1 1月初旬～2月
 - みかん(タンカン)狩り始まる
 - 1月1日～1月4日
 - 海洋博公園新春音楽祭で～びる
 - 1月の夜
 - 海洋博公園全国ドリームマラソン大会
 - 1月1日～1月2日
 - もとぶ八重岳まつり
- 2 2月初旬から中旬
 - 沖縄国際洋園博覧会
 - 2月10日
 - フクヤの日
- 3
- 4 4月～
 - カブオ地場産
 - 4月1日
 - 海開き(エメラルドビーチ)
 - 4月下旬
 - カブオのぼり掲揚
- 5 5月
 - 国定公園カルスト山ゆり祭り
 - 5月
 - もとぶカブオのぼりまつり
 - 5月
 - 瀬底島ピージャーオーラサイ
 - 5月11日
 - アセローラの日PRイベント
 - 5月12日
 - アセローラの日
- 6 6月10日
 - 6月10日は本部(むとぶ)の日?
 - 6月 (旧暦5月4日)
 - 健聖(ハリー)
 - 6月下旬
 - ドリーム競馬とぶ
- 7 7月初旬
 - キンキン(健聖)ゴーヤスーパ
 - 7月中旬
 - 海洋博公園サマーフェスティバル
 - 7月中旬
 - 本部海洋まつり
- 8 8月初旬
 - やんばる青年イサマ祭り
- 9
- 10 10月第2土曜日
 - カープデーの日
 - 10月～11月
 - みかん(カープデー)狩り始まる
 - 10月17日
 - 沖縄そばの日
 - 10月中旬
 - 本部町そばの日フェスタ
- 11 11月中旬～
 - 海洋博公園ウィンターファンタジー
 - 11月下旬
 - 海洋博公園オクトムフェスティバル
- 12 12月初旬
 - もとぶ競馬
 - 12月中旬～
 - エメラルドショッピング始まる



本部海洋まつり

毎年7月中旬、3日間にかけて行われる。ハーリー大会や、ナウター競牛大会、沖縄全島角力大会、バナナ・グラスボード無料乗船会などさまざまなイベントで盛り上がる。



国定公園カルスト山ゆり祭り

約12万本の山ゆりと壮大なカルスト地形の景観が楽しめる祭り。夜はライトアップも行う。



瀬底島ピージャーオーラサイ

瀬底島では、毎年5月4日に開催される「ピージャーオーラサイ」を開催。珍しいヤギ同士のぶつかり合いを見に、町内外から多くの人が鳥を訪れる人気の行事。



アセローラの日

5月12日の「アセローラの日」前後、アセローラの魅力をより多くの人に知ってもらおうとPRイベントを行っている。



夕陽

沖縄本島の西海岸に位置する本部町は、夕陽がきれいなまちとして有名。一年を通して、思わず息をとむような夕陽をみることが出来る。



キンキン(健聖)ゴーヤスーパ

健聖(キンキン)というかつて県内有数のゴーヤ産地だった東部の在来種「キンキンゴーヤ」を復活させるプロジェクト。



自然の魅力！ 五感で楽しむ本部の祭り

もとぶ八重岳まつり

毎年1月下旬～2月初旬の寒桜の開花に合わせて八重岳の森公園で開催。標高453mの八重岳の中腹から山頂までの沿道を約7千本の桜が鮮やかに彩り、訪れる人の目を魅了する。



本部町そばの日フェスタ

「そばの日」宣言以来、町では毎年沖縄そばの日に合わせて、本部町そばの日フェスタを開催している。



平成22年、本部町は県内初の「そばの町」宣言を行い、町全域を「もとぶそば街道」と名付けてPR。カツオ漁の港町として栄えてきた本部町は昔から沖縄そばの店が多く、カツオ出汁の本部そばが人気だ。

沖縄そばの町宣言
ORIGINAWA SOBA



海洋博公園サマーフェスティバル

海洋博公園を会場に、県内最大級の約1万発の花火打ちあがり、夏の一大イベント「コンサート」も行われ、会場は最高潮に盛り上がる。



カツオのぼりまつり

「カツオの町」をPRするために、GW頃に町で掲揚されるカツオのぼりは、本部町初夏の風物詩。



沖縄国際洋園博覧会

海洋博公園で開催される、日本で最も古い歴史を持つ国内最大級の園のイベント。園内のラン屋で唯一授けられる「内閣総理大臣賞」受賞株は必見。

町民サービスの向上と安心・安全な暮らしのための防災拠点として



旧本郷町役場庁舎

昭和34年に落成し、その後、増築などを行いつつ57年間、町の発展を見守ってきました。



旧上本郷町役場庁舎

昭和46年の合併後、昭和49年までは本郷町役場兼花支所として、平成26年までは公営企業課(水道課)として活用されてきました。



平成26年に
新庁舎が
完成しました



本部町役場新庁舎

平成26年10月に落成した本部町役場新庁舎は、行政サービスをより迅速、確実に提供するため工夫が凝らされています。どなたでも利用しやすいよう通路やトイレにはバリアフリー化が施され、防災拠点としての機能も強化されています。



町長 高良 文雄



副町長 平良 武康



副町長 仲宗根 清二

本部町行政区



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 47-3741



【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
TEL・FAX 47-2310



【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
TEL・FAX 47-4197



【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
TEL・FAX 47-4540



【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
【文化財】
堀川(国指定天然記念物:昭和47年指定)
TEL・FAX 47-2108



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 47-3036



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 47-2301



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 47-5879



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 47-3423



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2305



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2311



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2312



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2312



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2371



【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
【文化財】
源氏鶏太記念館(昭和49年指定)
TEL・FAX 48-2391



議会 行政

活力あふれるまちづくりを目指して



町長 喜納 政樹



副町長 島袋 吉徳

本部町議会議員



知念 重吉



宮城 達彦



松川 秀清



西平 一



座間味 栄純



具志堅 勉



石川 博己



大城 正和



崎原 昇



仲間 厚洋



仲宗根 宗弘



崎浜 秀進

資料編

DATE

目で見る本部町のくらし	34
土地および気象	35
地形・面積	36
人口	37
行政組織図	38
歴代町長・議長	39
財政	40
特別会計	41
産業／就業人口	42
産業／漁獲量	43
産業／宿泊施設数	44
教育	45
福祉・保健衛生	46
消防・警察	48
選挙	50
公共機関その他施設	51
本部町の歴史	52
本部町のあゆみ	53
本部町の豆知識	65



北海道南富良野町

友好都市

南富良野町との親善交流

本部町と南富良野町は、昭和62年に本部町、平成元年に南富良野町で開催された国民体育大会のカヌー競技をきっかけに交流が始まり、平成8年に「友好の町」として盟約を締結しました。以来、相互訪問などの文化体験交流を重ね、本部町親善交流団としてこれまでに、300人以上の児童生徒が南富良野町を訪れています。



南富良野町から届いた雪の感触を楽しむ子どもたち

人と人、文化をつなぐ交流

交流事業

南米本部町出身子弟研修生受け入れ事業

本部町は、戦前から戦後の復興期にかけて、南米に渡った本部町出身者から多くの援助をいただきました。その恩返しや、本部町と南米諸国のかけ橋となる人材の育成を目的に平成7年から、ペルー、アルゼンチン、ブラジルの3カ国から研修生の受け入れを行っています。研修生は、語学研修や、三線教室、町内の各種イベントなどへの参加を通して沖縄や本部町の文化を学び、その多くが南米3カ国と本部町をつなぐ本部町人会の活動のけん引役として活躍しています。

